

# 基本形容詞の語釈における意味特徴

——国語辞書を比較するための一観点として——

大 島 中 正

【キーワード】 辞書, 語釈, 意味特徴, 形容詞, 『例解国語辞典』, 『例解新国語辞典』

## 1. はじめに

大島中正 (1992) では、「国語辞書」ならぬ「日本語辞書」をつくりだすための辞書論を前進させるには、まず、現行の国語辞書の記述そのものについての分析をすすめる必要があるという立場から、『例解新国語辞典 (第三版)』にみえる基本形容詞の語釈について考察をくわえた。語釈を、対訳型と説明型とに大別し、後者から7種類の意味特徴を抽出した。

本稿は、『例解国語辞典』と『例解新国語辞典』における基本形容詞の語釈の異同を、その7種類の意味特徴の分布状況や組合せの実態を調査することによって、あきらかにしようとするものである。

## 2. 調査の概要

### 2-1 辞書

調査の対象とする辞書は、すでにのべたとおり、『例解国語辞典』と『例解新国語辞典』の2冊である。

『例解国語辞典』 編著者：時枝誠記，見出し項目数：40,000余項目（『くらしの手帖』Ⅱ巻10号(1971年)p.14には実数44,156とある），出版社：中教出版，発行年月日：1956年（昭和31年）2月10日初版発行

『例解新国語辞典』 編著者：林四郎（編集代表），見出し項目数：40,000項目  
出版社：三省堂，発行年月日：1994年（昭和59年）2月1日初版発行

前者は、辞書史上の名著として、たかく評価されている。その名のとおり、「ほと

んど各語について用例を豊富に挙げて、どのような場合に、どんなふうにもちいられるかの実際を示すことに意を用い<sup>1)</sup>ているが、そればかりでなく、「従来の辞書が語の意味を、場面や文脈から分離し、抽象的に取り扱おうとしたのに対し、そのことばが場面や文脈でじっさいに使われる状況をよく観察し、具体的に意味を述べるという方向を取った<sup>2)</sup>」のであり、「このような態度は、基本語の意味を書くときに効果を表わした<sup>3)</sup>と評価されている。根来司（1985）には、「多くの国語国文学徒がこの辞典を読んで、もう一度国語辞典のあり方を考えさせられた、そういうありがたい辞典であったと思うのである<sup>4)</sup>」とのべられている。

後者は、大島中正（1992）にのべたとおり、「中学校の教材や中学生の読み物をベースにして<sup>5)</sup>、見出し項目の選定がおこなわれたものではあるが、一般成人・日本語教師・上級レベルに達した学習者にとってもつかいやすく、役に立つとの評価<sup>6)</sup>があたえられている。

現在も刊行されているおもな小型国語辞書を初版刊行年順に列挙すると、次のようになるが、『例解国語辞典』は、初版が1956年に刊行され、『例解新国語辞典』は、初版が1984年の刊行である。両者には約30年のへだたりがある。両辞書はともにたかい評価をえているが、基本形容詞の語釈については、何がどうちがうのか。その点をあきらかにしたいとおもう。

- 1960 『三省堂国語辞典』（三省堂 現在第四版）
- 1963 『岩波国語辞典』（岩波書店 現在第五版）
- 1972 『新明解国語辞典』（三省堂 現在第四版）
- 1984 『例解新国語辞典』（三省堂 現在第四版）
- 1985 『新潮現代国語辞典』（新潮社 現在初版）
- 『現代国語例解辞典』（小学館 現在第二版）
- 『旺文社詳解国語辞典』（旺文社 現在重版）
- 1988 『三省堂現代国語辞典』（三省堂 現在第二版）
- 1989 『福武国語辞典』（福武書店 現在初版）

なお、調査には、『例解国語辞典』は1976年4月15日発行の第40版を、また、『例解新国語辞典』は第四版（1993年11月20日発行）をそれぞれ使用した。大島（1972）では、『例解新国語辞典』第三版（1990年12月15日発行）を使用した。基本形容詞の語

釈については、ごくわずかではあるが、記述のあらためられた箇所がある。その点については、次の節でふれることとする。

## 2-2 基本形容詞

基本形容詞を対象とするのは、大島（1992）でものべたが、形容詞、なかでも、その基本的なものは、理想的な語釈（狭義の定義）がむずかしい語類の1つであるとかんがえられるからである。理想的な語釈とは、「（見出し語の同位語との差をしめしうる）意味特徴+（見出し語の）上位語」という型でもって、的確になされる定義のことである。しかし、困難であるだけに、語釈上のさまざまな、創意工夫のあとがみられるのではなかとかんがえる。大島（1992）では、『例解新国語辞典（第三版）』における創意工夫のあらわれの一端をあきらかにした。

基本形容詞の語釈（複数の語義がしめされている場合は①のみを調査対象とした）における、『例解新国語辞典（第三版）』と『同（第四版）』との異同は、つぎにしめすとおりである。（→の左側が第三版で、右側が第四版。）なお、表記形式のみに変更のあったものについては、ここではとりあげないことにする。

- あつい＝ ……手でさわれないくらいに→……手でさわれないくらい  
 うれしい＝ ……満足できるようになって→……満足でき、  
 おそろしい＝ ……気持ちになる。→……気持ちがする。  
 かしこい＝ 頭のはたらきがすぐれている。→頭がいい。  
 かるい＝ ……するのがかんたんだ。→……するのに、それほど大きい力が  
 いらず、かんたんだ。  
 しろい＝ 白い色である。→白色である。  
 すばらしい＝ とてもみごとだ。→まったくみごとだ。  
 せまい＝ 面積などが、→面積や空間などが、  
 つまらない＝ おもしろくもおかしくもない。→興味がもてなくてたいくつだ。  
 ながい＝ ……距離が→……、はなれている程度が  
 はやい＝ 他と比べて、短時間でものごとがすすむようす。→ものごとをす  
 るのが、ほかと比べて、時間がみじかくすすむ。  
 ひくい＝ また、いちばん下から上までの距離が小さい。→また、基準とな

- る面とのへだたりが小さい。
- ほそい＝ 線状や棒状をしたものが、→線状や棒状のものが、
- やすい＝ お金がか少ししかかからない。→お金がか少ししかかからない。またそのものの値うちにくらべて、お金のかかりかたが少ない。
- よわい＝ 力がたりなくて、たよりにならない。→他と比べて、力や能力がたりない。

『例解国語辞典』においても、複数の語義がしめされている場合は、①のみを調査対象とすることとしたが、『例解新国語辞典』と比較する都合上、①以外のもの（おもに②）を対象とした場合がある。

対象とした基本形容詞は、大島（1992）と同様、玉村文郎選定「日本語教育基本2570語」（日本語教師養成通信講座テキスト『日本語の語彙・意味(2)』、アルク、1987年、pp.100-114）にしめされた全形容詞113語である。『例解国語辞典』・『例解新国語辞典』ともに、「暑い」と「熱い」が1つの見出し項目であつかわれ、「いい」と「よい」は、語釈に関してはどちらか一方でしかおこなわれていないので実際には111見出し項目を対象とした。

### 2-3 分析の観点

語釈の分析の観点は、大島（1992）と同様である。

まず、見出し語の類義語による言い換え、および対義語を否定しただけの語釈を「対訳型」とし、その他のものは「説明型」として大別する。

形容詞の「説明型」語釈には、「a. 主体」・「b. 主体の側面」・「c. 条件」・「d. 原因」・「e. 結果」・「f. 比較の対象」・「g. 程度」という7種類の意味特徴を組み合わせることによって、おこなわれうるものとかがえる。今回は、その実態を前掲の2冊の国語辞典についてあきらかにするのが目的である。7種類の意味特徴を具体的に例示しておこう。たとえば、「ぬるい」<sup>7)</sup>という基本形容詞を、この7つの意味特徴のすべてと「状態だ」という上位語とによって語釈をこころみると、つぎようになる。

- ぬるい＝風呂やあたたかい飲み物など（a. 主体）の温度（b. 主体の側面）がなんらかの原因で適温に達しなかったり、下がったりしているため（d.

原因)に、人がそれに触れたり、それを飲んだりしたとき(c. 条件)にちょうどいいと感じる温度(f. 比較の対象)より少し(g. 程度)低くて不満に思う(e. 結果)状態だ。

または、プールの水や冷たい飲み物など(a. 主体)の温度(b. 主体の側面)が、なんらかの原因で適温に達しなかったり、上がったりにしているため(d. 原因)に、人がそれに触れたり、それを飲んだりしたとき(c. 条件)に、ちょうどいいと感じる温度(f. 比較の対象)より少し(g. 程度)高くて不満に思う(e. 結果)状態だ。

### 3. 調査の結果

#### 3-1 対訳型の語釈

『例解国語辞典』(以後「例」と略記する)・『例解新国語辞典(第四版)』(以後「新」と略記する)の両辞書において、語釈の全体、もしくは、一部分に類義語による言い換えのみられる基本形容詞の見出し項目は、次のとおりである。以後「例」の見出し項目には( )に、また、「新」の見出し項目には〈 〉に、それぞれ番号を記入して、語釈を例示する。各番号は、それぞれの辞書における提示順につけられたものである。

##### 3-1-1 見出し語の類義語のみによる語釈

「例」の場合 [6語]

- (1) あおい=青色である。
- (33) おもしろい=滑稽である。おかしい。
- (34) かしこい=利巧である。聡明である。
- (58) ずるい=わるがしこい。横着である。狡猾である。こすい。
- (87) ぶあつい=分厚である。
- (12) よい=すぐれている。上等である。(「いい」の語釈は「よい」の語釈を参照することになっている)

「新」の場合 [4語]

- 〈12〉 いい=すぐれている。このましい。望ましい。
- 〈40〉 きたない=よごれている。

(91) ほしい=自分のものにしたい。手に入れたい。

(95) まるい=円形である。

### 3-1-2 見出し語の対義語のみによる語釈

「例」の場合 [3語]

(72) ない=存在しない。所有していない。

(92) ほそい=ふとくない。

(97) みにくい=美しくない。

「新」の場合 [1語]

(72) ない=存在しない。持っていない。

### 3-1-3 見出し語の類義語と対義語とによる語釈

「例」の場合 [3語]

(64) たやすい=やさしい。容易である。むずかしくない。

(54) すくない=多くないさま。僅かである。少しである。僅少である。足りない。

(106) やわらかい=かたくない。やわらかである。

「新」には、該当する見出し項目なし。

## 3-2 対訳型・説明型併用の語釈

対訳型の部分には下線をひき、説明型の部分は直線でかこむ。

「例」の場合 [20語]

(6) あたらしい=物の始めである。 改まっている。 はじめてである。

(9) あぶない=危険である。 あやうい。 危険な目に会おうとしている。

(18) うつくしい=綺麗である。 美的なところがある。

(24) おいしい=飲食物の味がよい。 うまい。 美味である。

(41) きびしい=非常に厳格で、なさけ容赦がない。 厳重である。 むごい。  
苛酷である。

(46) くわしい=ごく小さなところまで尽くしている。 詳細である。

(49) こわい=他人に恐怖の念を与える。 恐ろしい。

(51) さむい=温度が低いのをからだに感ずる。 ひややかである。

- (67) つまらない=おもしろくない。 興味が湧かない。
- (70) つらい=くるしい。 我慢できない。
- (75) にくい=癩にさわる。 かわいらしさが無い。 にくらしい。
- (76) にぶい=するどくない。 切れ味が悪い。
- (89) ふとい=まわりがおおきい。 肥えている。
- (93) まずい=味が悪い。 おいしくない。
- (94) まずしい=金に乏しい。 貧乏である。
- (100) めでたい=祝う値打ちがある。 よろこばしい。
- (103) やさ(易)しい=苦勞しないのでできる。 たやすい。
- (104) やさ(優)しい=おだやかである。 落ち着いていて柔らかな感じがする。
- (107) ゆるい=堅く締まっていない。 ゆったりしている。 きつくない。
- (111) わるい=人間として行うべき道にかなっていない。 道義上よくない。  
邪悪である。

## 「新」の場合 [1語]

- 〈1〉 たやすい=むずかしくない。 わけなくできる。

## 3-3 説明型の語訳

## 3-3-1 意味特徴の分布

2-3にしめした7種類の意味特徴は、両辞典の説明型の語訳において表1のように分布している。

## 3-3-2 意味特徴の組合せ

両辞典の説明型の語訳における意味特徴の組合せは表2のようである。

## 3-3-2-1 意味特徴が1種類の場合

## A. 「例」の場合 [15語]

## ① 「d. 原因」のみ

- (9) あぶない=危険な目に会おうとしている。
- (36) かなしい=心がいたむような感じを与える。また心がいたむ。
- (40) きたない=ほこりや泥などでよごれている。

表1 意味特徴の分布

意味特徴	辞書	
	【例解国語辞典】 の見出し項目数	【例解新国語辞典】 の見出し項目数
a. 主体	13	21
b. 主体の側面	62	65
c. 条件	15	25
d. 原因	83	87
e. 結果	25	48
f. 比較の対象	1	16
g. 程度	6	32

表2 意味特徴の組合せ

意味特徴 数の数	辞書	
	【例解国語辞典】 の見出し項目数	【例解新国語辞典】 の見出し項目数
1	15	5
2	55	42
3	23	30
4	3	21
5	0	5
6	0	1
7	0	0

- (49) こわい＝他人に恐怖の念を与える。  
 (63) たのしい＝心が満ち足りて明るく愉快的気分である。  
 (85) ひらたい＝横に広くて厚くない。  
 (94) まずしい＝金に乏しい。  
 (107) ゆるい＝堅く締っていない。

## ② 「e. 結果」のみ

- (37) からい＝舌を刺すような感じがする。  
 (39) かわいい＝深く愛して大事に思う。  
 (67) つまらない＝興味が湧かない。  
 (70) つらい＝我慢できない。  
 (76) にぶい＝切れ味が悪い。  
 (78) ねむい＝眠りたい気持である。  
 (103) 易しい＝苦勞しないのできる。

## B. 「新」の場合 [5語]

## ① 「d. 原因」のみの場合

- (14) いさましい＝なにごともおそれず、積極的だ。  
 (63) たのしい＝とてもうれしくて、心がうきうきしている。  
 (98) むしあつい＝風がなくて、湿度が高く、むしむしして暑い。



## ② 「e. 結果」のみの場合

(67) つまらない＝おもしろくもおかしくもない。

(100) めでたい＝よろこばしいことだ。

## 3-3-2-2 意味特徴が2種類の場合

## A. 「例」の場合 [55語]

## ① 「b. 主体の側面」と「d. 原因」

(4) あさい＝底や奥までの距離が短い。

(7) 厚い＝厚みがある。

(8) 熱い＝温度が高い。

ほかに、荒い・いけない・いがしい・いさましい・いたい・うすい・うつくしい・うるさい・えらい・おもい・かるい・こい・せまい・ちかい・つめたい・つよい・とおい・にくい・のろい・はげしい・ひくい・ひろい・ふかい・ふとい・ふるい・ほそい・まずい・みじかい・むしあつい・めでたい・やかましい・やすい・よわい・わかい。

## ② 「c. 条件」と「d. 原因」

(50) さびしい＝物音も聞えず人もあまりいないような静かさである。

ほかに、うれしい・しろい・ただししい・わるい。

## ③ 「d. 原因」と「e. 結果」

(15) いそがしい＝時間が限られている上、用が多くてひまがない。

ほかに、おかしい・すずしい・はずかしい・優しい。

## ④ 「d. 原因」と「g. 程度」

(41) きびしい＝非常に厳格で、なさけ容赦がない。

ほかに、こまかい・めずらしい・もったいない・くわしい。

## ⑤ 「a. 主体」と「d. 原因」

(77) ぬるい＝水などがなまあたたかい。

ほかに、あたらしい。

## ⑥ 「b. 主体の側面」と「e. 結果」

(26) おおきい＝形が多くの場所を占める。

ほかに、はやい。

## B. 「新」の場合 [42語]

## ① 「b. 主体の側面」と「d. 原因」

〈4〉 あさい＝底やおくまでの距離がみじかい。

〈41〉 きびしい＝いいかげんなところや、妥協するところがない。

〈107〉 ゆるい＝しめる力がたりなかったり、すきまがあったりして、しまりかたがじゅうぶんでない。

ほかに、あたらしい・いけない・おいしい・かしこい・かわいい・こまかい・したしい・ちかい・ながい・ひろい・ふかい・みじかい・もったいない・優しい。

## ② 「d. 原因」と「e. 結果」

〈15〉 いそがしい＝用事が多くてゆっくりするひまもない。

〈50〉 さびしい＝しずかで、はなやかさがなく、心ぼそい感じを人にあたえる

ほかに、あぶない・おかしい・おそろしい・おとなしい・おもしろい・かなしい・こわい・まずしい。

## ③ 「c. 条件」と「d. 原因」

〈111〉 わるい＝道義的によくない。

ほかに、うらやましい・ただしい。

## ④ 「c. 条件」と「e. 結果」

〈32〉 おもい＝ものを持ちあげたり、動かしたりするのに、大きな力がある感じだ。

〈37〉 からい＝トウガラシやカレー粉を口に入れたときのような、舌がひりひりする感じだ。

ほかに、あたたかい・かたい・かるい。

## ⑤ 「d. 原因」と「g. 程度」

〈57〉 すばらしい＝とてもみごとだ

ほかに、たやすい・めずらしい・わしい。

## ⑥ 「a. 主体」と「d. 原因」

〈84〉 ひとしい＝二つ以上のものが、同じである。

## ⑦ 「b. 主体の側面」と「c. 条件」

〈16〉 いたい＝たたかれたり、ころんだりしたときの感じ。

## ⑧「e. 結果」と「g. 程度」

〈64〉 たやすい＝わけなくできる。

〈78〉 ねむい＝いまにも眠ってしまいそうな気分だ。

## 3—3—2—3 意味特徴が3種類の場合

## A. 「例」の場合 [23語]

## ①「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」

(35) かたい＝質が強く丈夫である。

ほかに、あたたかい・おとなしい・くさい・くるしい・するどい。

## ②「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」

(95) まるい＝輪または球の形をしている。

ほかに、あまい・うらやましい・すっぱい。

## ③「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」

(19) うまい＝飲食物の味がよい。

ほかに、おいしい・おおい・したしい・たかい・ちいさい・ながい・ひとしい。

## ④「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「e. 結果」

(29) おそい＝物事をするのに時間がかかる。

## ⑤「a. 主体」と「c. 条件」と「d. 原因」

(30) おそろしい＝強力なもの、自分に害を加えるもの、また望ましくない結果がうまれそうなことをこわいと感じる。

## ⑥「d. 原因」と「f. 比較の対象」と「g. 程度」

(57) すばらしい＝非常に立派である。普通よりずっとすぐれている。

## ⑦「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「e. 結果」

(74) ながい＝舌にいやな味を感じる。

## ⑧「a. 主体」と「b. 主体の側面」「e. 結果」

(29) おそい＝物事をするのに時間がかかる。

## B. 「新」の場合 [30語]

## ①「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「c. 条件」

〈1〉 あおい＝晴れた空や深い海の色をしている。

ほかに、あかい・くろい。

- ② 「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」  
 〈7〉 厚い=ものの表面から裏がわの面までのあいだのへだたりが大きい。  
 ほかに、うすい・こい。
- ③ 「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」  
 〈10〉 あまい=砂糖や蜜のような味だ。  
 ほかに、うれしい・すっぱい。
- ④ 「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」  
 〈21〉 うるさい=音や声が耳について不快だ。  
 ほかに、とおい・まずい・よわい・わかい。
- ⑤ 「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「f. 比較の対象」  
 〈23〉 えらい=人がらや言動などが他人に比べてすぐれている。  
 ほかに、おおい・すくない・たかい・つよい・ひくい。
- ⑥ 「a. 主体」と「c. 条件」と「d. 原因」  
 〈28〉 おいしい=大事なものをなくしたり、むだにしたりしたくない気持ちだ。
- ⑦ 「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」  
 〈44〉 くるしい=つらくてとてもがまんできない。  
 ほかに、つらい・易しい。
- ⑧ 「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」  
 〈58〉 ずらい=自分の損得をまず考えて、人をだしぬいたり、やるべきことをやらなかったりして、いやらしい。
- ⑨ 「b. 主体の側面」と「e. 結果」と「g. 程度」  
 〈74〉 ながい=はき出したくなるような不快な味だ。
- ⑩ 「a. 主体」と「e. 結果」と「g. 程度」  
 〈76〉 にぶい=はものなどが、よく切れない。
- ⑪ 「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「g. 程度」  
 〈80〉 はげしい=いきおいがたいへんつよい。  
 ほかに、ひらたい・ふるい。

## 3—3—2—4 意味特徴が4種類の場合

## A. 「例」の場合 [3語]

- ①「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」
- (3) あかるい=光の量が多くて、物がはっきりよく見えること。
- (43) くらい=光が少なくて、物を見て判断するのに困難である。
- ②「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」
- (28) おいしい=立派な物の価値が無駄になり、十分発揮されないことが残念である。

## B. 「新」の場合 [21語]

- ①「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (8) 熱い=手でさわれないくらい温度が高い。
- (11) あらい=手がつけられないくらい、いきおいや動きがはげしい。
- (19) うまい=よろこんで食べたくなるほど、味がよい。
- (42) くさい=顔をしかめたくなるような、いやなおいがする。
- (51) さむい=火のそばが恋しくなるくらい、気温が低い。
- (97) みにくい=形などがととのっていないくて、見るのもいやな感じである。
- (102) やかましい=音や声が大きすぎて、不快感をおこさせる状態である。
- ②「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「f. 比較の対象」
- (26) おおきい=ものの面積や体積、あるいはものごとの規模や範囲などが、ほかのものに比べて、うまわっている。
- (65) ちいさい=ものの面積や体積、あるいはものごとの規模やはんいが、他のものと比べて、したまわっている。
- ③「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (55) すずしい=暑くて不快なときに、気持ちがいい程度につめたい。
- (106) やわらかい=ふわふわしていて力をくわえると、たやすく変形するようす。
- ④「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「f. 比較の対象」と「g. 程度」
- (60) せまい=面積や空間などが、必要な広さもないほどに小さい。
- ⑤「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」と「g. 程度」
- (68) つめたい=さわったときにひどく温度が低いと感じられるようす。
- ⑥「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (79) のろい=速度が、いらいらするぐらいおそい。

- ⑦「a. 主体」と「d. 原因」と「e. 結果」と「f. 比較の対象」
- (81) はずかしい=自分が人にくらべて、おとっていると感じて、ひけめやためらいをおぼえるようす。
- ⑧「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「g. 程度」
- (87) ぶあつい=本などのひらたいもので、かなりの厚みを感じられるようす。
- ⑨「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「f. 比較の対象」
- (89) ふとい=線状や棒状のものが、長さや高さのわりに、はばやまわりが大きい。
- (92) ほそい=線状や棒状のものが、長さや高さのわりに、はばやまわりが小さい。
- ⑩「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「e. 結果」と「f. 比較の対象」
- (29) おそい=ものごとをするのが、ほかと比べて時間がかかる。
- (82) はやい=他と比べて、短時間でものごとがすすむようす。
- ⑪「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」と「f. 比較の対象」
- (105) やすい=お金が少ししかかからない。また、そのものの値うちにくらべて、お金のかかりかたが少ない。

## 3—3—2—5 意味特徴が5種類の場合

A. 「例」には該当例なし

B. 「新」の場合 [5語]

- ①「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (3) あかるい=光の量がじゅうぶんで、ものがよく見える。
- (43) くらい=光の量がじゅうぶんでないので、ものがよく見えない。
- ②「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (59) すどい=はものなどの先がとがっていて、よくささったり、切れたりする。
- ③「a. 主体」と「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」
- (75) にくい=自分にいたでをあたえた相手が、ひどくうらめしくて、復讐してやりたいほどだ。

- ④「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「d. 原因」と「f. 比較の対象」と「g. 程度」

〈77〉ぬるい=ふろやあたたかい飲みものなどが、ちょうどいい温度よりもすこし低い。

3—3—2—6 意味特徴が6種類の場合

- A. 「例」には該当例なし  
B. 「新」の場合 「1語」

- ①「a. 主体」と「b. 主体の側面」と「c. 条件」と「d. 原因」と「e. 結果」と「g. 程度」

〈18〉うつくしい=見たり聞いたりするものが、人の心をとらえるほど、こころよい感じである。

3—3—3—7 意味特徴が7種類の場合

- A. 「例」に該当例なし。  
B. 「新」に該当例なし。

#### 4. 考 察

第3節に示した調査結果から、全体として、いえることは、次の2点である。

Ⅱ『例解国語辞典』は、『例解新国語辞典』より対訳型の語釈がおおく、意味特徴1種類のみによる語釈も『例解新国語辞典』の3倍である。

Ⅲ『例解新国語辞典』は、『例解国語辞典』にくらべて、よりおおくの意味特徴を組合わせた、説明型の語釈をこころみようとしている。3～4種類の意味特徴の組合せによる語釈が、説明型語釈の半数ちかくをしめている。

両辞書間のこのような相違点は、なにによるものであろうか。30年という年月のへだたりと関係があるのかどうか。他の辞書についても同一の調査をおこなわない限り、なんともいいがたい。ここでは、実態の提示にとどめざるをえない。また、『例解国語辞典』以前の辞書についても同様の調査をおこなえば、『例解国語辞典』が対訳型と説明型とを併用している場合があったが、そのことの意義があきらかにできるかもしれない。『例解国語辞典』の「凡例 四」には、「語釈または解説の文章はできるだけ詳しく正確に、しかし冗漫にならないようにすることを建前とした。」とある。対

訳型と説明型の併用は、このような編纂方針のあらわれであるかもしれない。

一方、目を将来にむけて、あるべき日本語辞書のすがたを模索するならば、『例解新国語辞典』にみえる語釈の方法をさらに充実・発展させてゆかなければならないだろう。7種類の意味特徴すべてをもちいた語釈の私案を第2節にしめしたが、『例解新国語辞典』にも、そのような語釈は、今回の調査では、みられなかった。もちろん「正確さ」と「わかりやすさ」と「簡潔さ」とのバランスの問題は、つねに考慮しなければならないが、渡辺実(1991)には「思い切って経験を示す辞書が作れたなら、意味の学習は格段に面白く、かつ効率のよいものになるだろうと想像される」<sup>8)</sup>とあるが、「条件」や「結果」の記述内容を充実させることは、そのような辞書づくりへの道をきりひらくことになるのではないだろうか。

## 5. お わ り に

簡潔な表現で、しかも過不足のない語釈をおこなおうとすることは、なかなか骨のおれる仕事である。本稿は、基本形容詞についてのそういう仕事のあとを、7種類の意味特徴というモノサシをもちいて、たどってみた。モノサシそのものの検討もかさねていかなければならない。調査の結果をなるべくおおく提示したのは、細部にわたっての批正をこうからでもある。

今後は、上位語についての調査をおこない、その適否を検討すること、さらには、説明型の語釈における用語および構文についての調査・分析をすすめてゆきたい。

## 注

- 1) 『例解国語辞典』の「凡例」の五。
- 2) 見坊豪紀(1977a)のp.354。
- 3) 2)におなじ。
- 4) 根来 司(1985)のp.246。
- 5) 『例解新国語辞典(第四版)』のp.(4)。
- 6) 『例解新国語辞典』に対する評価は、たとえば、玉村文郎(1985)には、「簡にして要を得た小型国語辞書」(p.140)とあり、また、玉村文郎(1995)には、「上級レベルに達した学習者には、三省堂刊『例解新国語辞典』などが使いやすいであろう。」とある。



- 7) 辞書における「ぬるい」の記述の問題点については、玉村文郎 (1972), 同 (1985) などでもとりあげられている。この語釈の私案は、玉村文郎 (1985) の p.83に「『ぬるい』という語は、液体ノ・温度ガ・使用目的ノ標準ニ・達シテイズ・ソノタメニ不満足感が伴ウ・状態」とあるのを参考にして作成した。
- 8) 渡辺 実 (1991) の p. 59。

#### 参考文献

1. 岩野靖則 (1982) : 「辞典の意味記述の文体」, 『講座日本語学 8 文体史』, 明治書院.
2. 大島中正 (1992) : 「国語辞書における形容詞の語釈の類型——『例解新国語辞典(第三版)』を調査資料として——」, 『同志社女子大学学術研究年報』43-IV.
3. 見坊豪紀 (1977a) : 「日本語の辞書(2)」, 『岩波講座日本語 9 語彙と意味』, 岩波書店.
4. ——— (1977b) : 『辞書と日本語』, 玉川選書61, 玉川大学出版部.
5. 玉村文郎 (1972) : 「日本語教育と辞書」, 文化庁『日本語と日本語教育〔語彙編〕』, 「国語シリーズ」別冊1, 大蔵省印刷局.
6. ——— (1985) : 『語彙の研究と教育(下)』, 「日本語教育指導参考書」13 国立国語研究所, 大蔵省印刷局.
7. ——— (1990) : 「辞書」, 『講座日本語と日本語教育 7 日本語の語彙・意味(下)』, 明治書院.
8. ——— (1995) : 「外国人のための日本語辞書構想」, 『月刊言語』124-6, 大修館書店.
9. 根来 司 (1985) : 「橋本進吉, 時枝誠記両博士と国語辞典の編集」, 『国語語彙史の研究 六』, 和泉書院.
10. 飛田良文・浅田秀子 (1991) : 『現代形容詞用法辞典』, 東京堂出版.
11. 水谷静夫 (1961) : 「語釈——本格的辞書の論の前座——」, 『国語学』47.
12. 村木新次郎 (1987) : 「対義語の輪郭と条件」, 『日本語学』6-6, 明治書院. 112.
13. ——— (1989) : 「現代語辞典の輪郭」, 『国文学解釈と鑑賞』54-1, 至文堂.
14. 渡辺 実 (1991) : 「意味の学習」, 文化庁『言葉の意味』「ことばシリーズ」34, 大蔵省印刷局.

(本学専任講師)